

チームで

ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍に関し、個人技以上にチーム力の高さが報道等でよくとり挙げられていました。サッカー、バレーボール、卓球、フェンシング、水泳のメドレーリレー…。メダルは逃したものの優勝候補のスペインを予選で打ち破り、ベスト4に進出した男子サッカーチームの活躍も快挙でした。選手一人ひとりの技術力ではスペインの方が上回っていたのかもしれませんが、その後、日本チームは勝ち上がり、スペインチームは沈み込んでいきました。チーム力（組織力）の差がこの差になって表れたのだと思われます。目標達成へ向けての強靱な精神力と個人の高い技術力。その上でのチーム力。これらがバランスよくかみ合ってよい結果につながっていったのでしょう。

団体戦で活躍した選手からは「チームのため」とか「チームのメンバーに支えられて」といった言葉がよく聞かれました。一方、個人競技で活躍した選手もインタビューの中では「家族に支えられて」とか「応援してくれた方々のお陰で」と話していました。日本の「和」の精神や奥ゆかしさが、若いオリンピック選手にも引き継がれているように感じました。

一定の目標を達成するため、一人だけの力には限りがあります。オリンピックのような大規模なイベントではなく、身近な事柄であっても同じようにチーム（組織）で取り組むことで、より近くに目標を引き寄せることができます。私は教職員に対し「何事もチームで」とよく言います。「子どもにとってよりよいことをなす」という目標達成に必要なからです。互いが信頼し合い、学び合える風通しのいい職場づくりのためでもあります。

「子どもにとってよりよいこと」は、学校と保護者・地域の皆さんとの共同作業によって初めて実現可能になります。学校、家庭、地域それぞれを「個人」と見なすなら、やはり一人では限界があります。それぞれが連携し「子育てチーム」として子どもを育成しなければなりません。子どものことを考えるとき、かりそめにも学校と保護者・地域とが対立するというようなことや、無関心といったことがあってはならないと考えます。既に保護者、地域の皆さんには様々な面で本校教育にご理解とご協力をいただいているところです。2学期の開始にあたり、これまでと同様、ご支援をお願いいたします。

ところで、ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍を子どもたちはどのように捉えたのでしょうか。子どものことですから選手の技の素晴らしさ、競技の勝敗、メダルの獲得数など、形に見えるものに興味・関心が向かい、なかなか「チーム力」といったところにまで目を向けることはなかったかもしれません。とはいえ、子どもたちは日々それぞれが「目標」をもって学習活動に取り組んでいます。ならばやはり「チームで」取り組む方が、より目標へ近づくということになります。

2学期には運動会、音楽会があります。教科等の学習内容も一層広がり深みを増してきます。チームで活動する場面も増えます。様々な場面においてチームで取り組むよさを子どもたちに感じ取らせつつ、「学力」の一要素としての「チームで取り組む力」を培っていきたいと考えています。